

あつぎはだのどうろ

「厚木秦野道路におけるオオタカ調査について(中間報告・その3)」

記者発表資料

国土交通省で整備を進めている厚木秦野道路の事業にあたり実施している、オオタカ調査の中間報告についてお知らせします。

厚木秦野道路は、一般国道246号のバイパスとして、東名高速、第二東名、さがみ縦貫道路(圏央道)を相互に連絡し、神奈川県央地域の広域的ネットワークを形成する延長約29kmの自動車専用道路です。このうち、伊勢原市内の主要地方道伊勢原津久井線~伊勢原西IC間(約4.8km)及び、厚木市内の厚木IC・JCT~厚木北IC間(約3.6km)の2区間が事業化されています。(IC名は仮称)

厚木秦野道路の事業実施にあたっては、平成10年12月に学識経験者などの専門家からなる「厚木秦野道路オオタカ検討会」(座長:亀山章東京農工大学農学部教授)を設置し、調査検討を行ってまいりました。

平成13年6月に、2営巣期^{注1)}を含む期間までの調査結果と保全対策の方向性についてをとりまとめ、中間報告したところです。

今般は、これまで得られた調査結果等をもとに、「猛禽類保護の進め方^{注2)}」に基づき専門家の意見を聞いて、保全対策の基本的な考え方をとりまとめましたのでお知らせいたします。

注1) 営巣期: 営巣期とは、巣材の運搬開始から産卵、孵化、幼鳥の巣立ちまでの期間をいいます。

注2) 猛禽類保護の進め方: 環境庁自然保護局野生生物課編

平成15年7月30日

国土交通省 横浜国道事務所

発表記者クラブ

神奈川県政記者クラブ

お問合せ先

国土交通省 横浜国道事務所

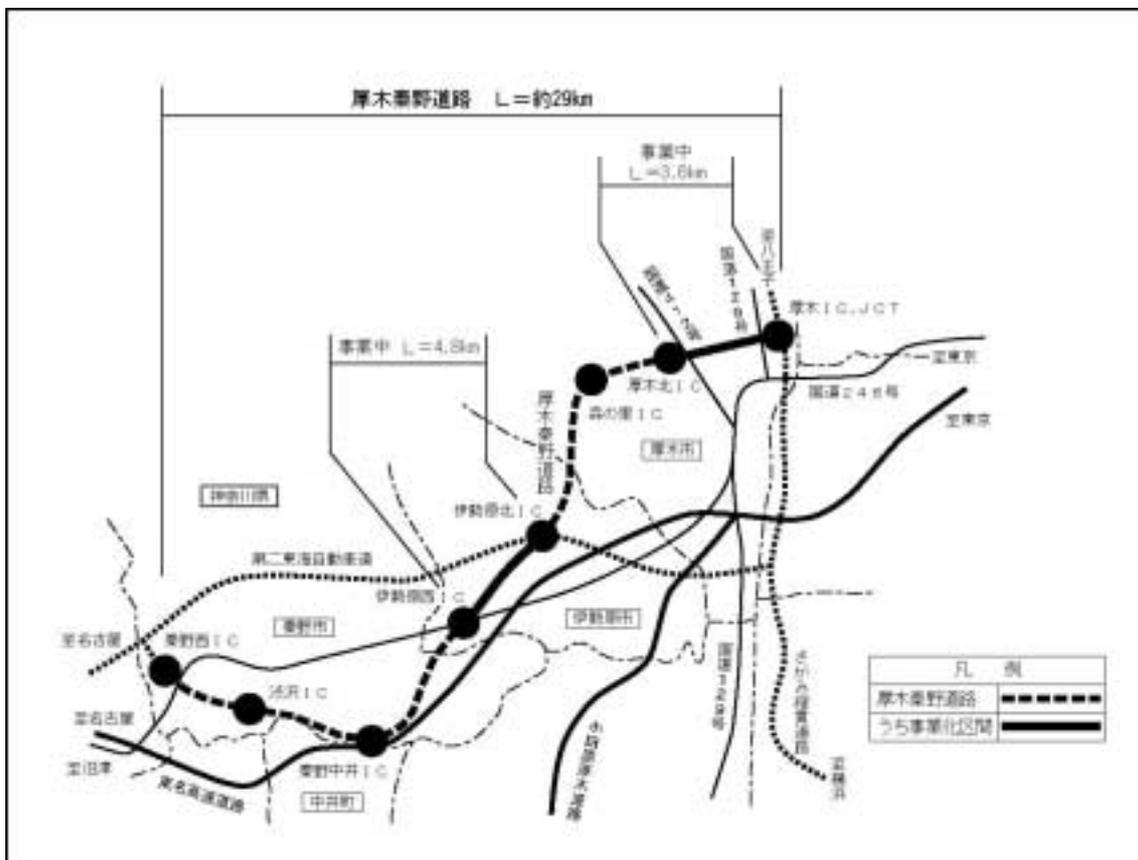
調査第一課長 ほんだ やすひで 本田 康秀

TEL 045 - 316 - 3536

1. 厚木秦野道路の概要

厚木秦野道路は、一般国道246号のバイパスとして、現道の慢性的な交通渋滞の緩和を図るとともに、東名高速・第二東名・さがみ縦貫道路（圏央道）を相互に連絡し、神奈川県県央・湘南地域の広域的ネットワークを形成する延長約29kmの自動車専用道路として、平成8年に都市計画決定された路線です。

本路線のうち平成10年度に伊勢原北IC～伊勢原西IC間（L=4.1km）が事業化され、現在道路の設計および用地買収等を実施しています。また、平成13年度には厚木IC・JCT～厚木北IC間（L=3.6km）が事業化され、厚木IC・JCT部において工事に着手しました。さらに、平成14年度には主要地方道伊勢原津久井線～伊勢原北IC間（L=0.7km）が事業化されています。（IC名は仮称）



2. 検討会の概要

(1) 概要

本事業の実施にあたり、平成10年12月に、学識経験者等の専門家からなる「厚木秦野道路オオタカ検討会（座長：亀山 章 東京農工大学農学部教授）」を設置し、調査検討を行っております。

検討会名簿

	氏 名	所 属
座 長	かめやま あきら 亀山 章	東京農工大学農学部教授
委 員 (五十音順)	あいばら むねよし 相原 宗由	中井町教育委員会教育長
	あおき じゅんいち 青木 淳一	神奈川県立生命の星・地球博物館館長
	しばた としたか 柴田 敏隆	神奈川県自然保護協会副会長
	はやま よしかず 葉山 嘉一	日本大学生物資源科学部専任講師
	やなぎさわ のりお 柳澤 紀夫	(財)日本鳥類保護連盟理事
事務局	国土交通省横浜国道事務所	

(2) 検討内容

これまでに検討会を9回開催し、その内容は下記の通りです

第1回検討会 平成10年12月21日

- ・既存の文献等をもとにした、今後の調査計画について検討

第2回検討会 平成11年10月8日

- ・平成11年（1営巣期目）の調査結果についての報告

第3回検討会 平成11年12月21日

- ・平成11年（1営巣期目）の調査結果についてとりまとめ
- ・平成12年（2営巣期目）の調査計画についての検討

第4回検討会 平成12年12月26日

- ・平成12年（2営巣期目）の調査結果についての報告
- ・平成13年の調査計画についての検討

第5回検討会 平成13年3月21日

- ・平成11、12年（1、2営巣期）の調査結果についてとりまとめ
- ・保全対策の方向性についての検討

第6回検討会 平成13年11月26日

- ・平成13年継続調査結果についての報告
- ・保全対策の検討

第7回検討会 平成14年3月4日

- ・平成11～13年の調査結果についてのとりまとめ
- ・保全対策の検討
- ・平成14年の調査計画についての検討

第8回検討会 平成14年11月26日

- ・平成14年継続調査結果についての報告
- ・保全対策の検討

第9回検討会 平成15年3月24日

- ・平成11～14年の調査結果についてのとりまとめ
- ・保全対策の検討
- ・平成15年の調査計画についての検討

3. 調査の概要

(1) 自然環境調査

既存の文献および航空写真、現地の踏査から、計画路線周辺の自然環境を把握しました。

(2) オオタカ生息状況調査

調査期間

平成11年1月～平成14年7月

調査方法

既存資料調査を元に、計画路線周辺における調査により、オオタカが生息する可能性がある樹林地を把握した上で、営巣木の踏査及び調査定点からの観測により、オオタカの飛翔軌跡、高度、個体の特徴、行動等の調査を実施してまいりました。

現地調査期間

調査内容	調査時期	備考
調査定点からの観測 (繁殖期 ^{注1)})	平成11年1～7月 平成12年1～7月 平成13年3～7月 平成14年2～7月	各月1～2回 それぞれ連続する2日間
調査定点からの観測 (非繁殖期 ^{注2)})	平成11年8,9,11月 平成12年8,9月	各月1回 それぞれ連続する2日間
営巣木調査	平成11年8月 平成12年10月	
未事業化区間の移動定点調査 ^{注3)} 〔 森の里IC～伊勢原北IC 〕 〔 伊勢原西IC～秦野中井IC 〕 〔 渋沢IC～秦野西IC 〕	平成11年1～7,9,11月 平成12年1～9月 平成13年3～7月 平成14年3,5,7月	各月1回 各地域1日間

注1) 繁殖期：繁殖期とは、求愛行動開始から営巣期（巣材運搬、産卵、孵化、巣立ちの期間）を含み、巣外育雛までの期間をいいます。

注2) 非繁殖期：繁殖期以外の期間をいいます。

注3) 調査ルート上を移動しながら所々で定点調査を実施する方法をいいます。

4．調査結果の概要

未事業化区間を含めこれまでに実施した調査では、計画路線周辺において、オオタカの飛翔、狩り行動などが確認され、1ヶ所の営巣地が伊勢原市内の計画路線周辺で確認されました。この営巣地において平成11年、12年、13年、14年ともに繁殖が行われました。

5．保全対策について

これまで得られた調査結果等をもとに、「猛禽類保護の進め方」（環境庁自然保護局野生生物課編）に基づき専門家の意見を聞いて、保全対策の基本的考え方をとりまとめました。

（1）道路供用時の保全対策

以下の保全対策を必要な箇所に実施することとしました。

遮光板を設置し自動車のヘッドライト等の光の路面以外への漏れを抑制する保全対策（図1）

照明灯の設置に際しては、遮蔽フードを設置し路面以外への光の広がりを抑制する保全対策（図2）

環境の変化を極力緩和するため、法面等への郷土種を中心とした植栽による保全対策（図3）

なお、具体的な樹種については、実施段階で詳細に検討してまいります。

（2）工事中の保全対策

以下の保全対策を必要な箇所に実施することとしました。

トンネル坑口やプラント周囲には遮光板等を設置し、光の漏れを抑制する保全対策（図4）

工事には低騒音・低振動型の建設機械を使用し、工事騒音・振動の低減を図る保全対策（図5）

樹木の伐採は必要最小限度にとどめ、急激な環境の変化を避けることによる保全対策（図6）

オオタカ的生活サイクルに配慮した工事工程を計画することによる保全対策（図7）

作業員の自然環境への配慮に関する教育、徹底による保全対策（騒音の低減に努める、餌付けや餌まきをしない、ゴミや残飯を投げ捨てない等）

注）今後、専門家の意見を聞く中で変更することがあります。

6. まとめ

今後も引き続き調査を実施するとともに専門家の意見を聞きながら、事業の進捗に合わせて保全対策の具体化を図り、オオタカの生息環境との調和を目指した事業の実施に取り組んでまいりたいと考えております。

稀少動植物保護のため、オオタカ等の飛翔状況・営巣地に関する情報の公表は、差し控えさせていただきますので、ご理解・ご協力をお願い致します。

以 上

(1) 道路完成時の保全対策

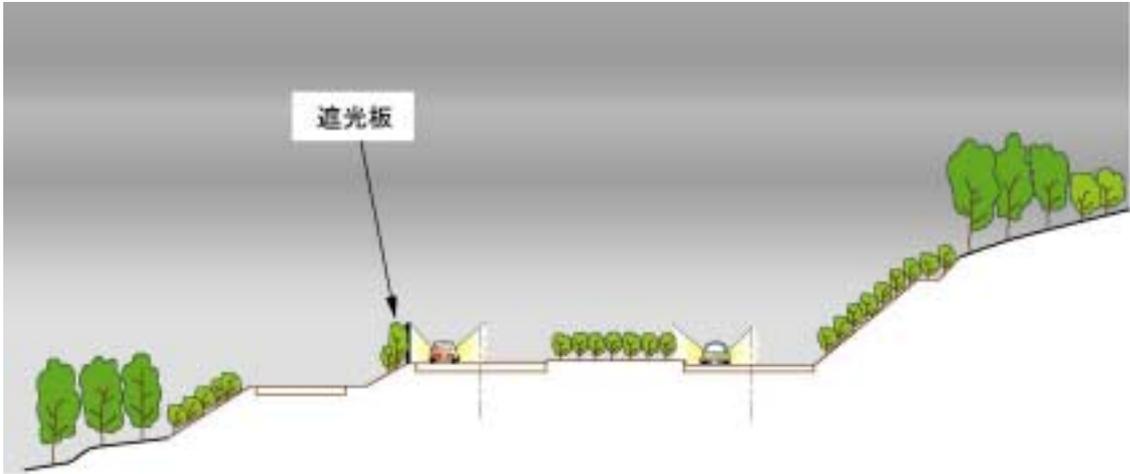


図1 遮光板を設置し自動車のヘッドライト等の光の路面以外への漏れを抑制する保全対策

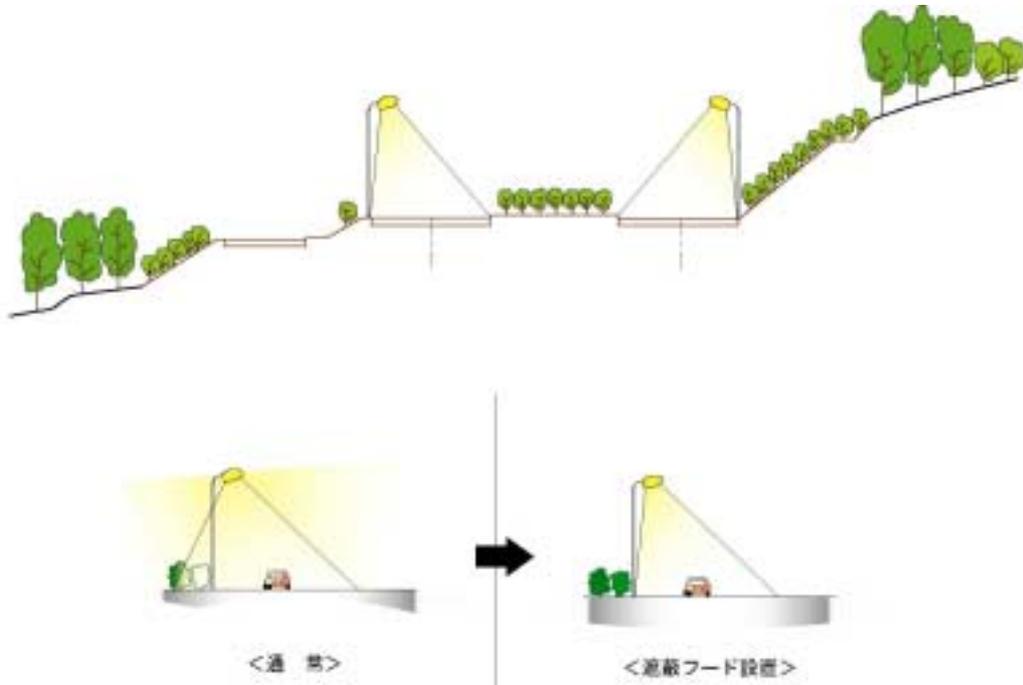
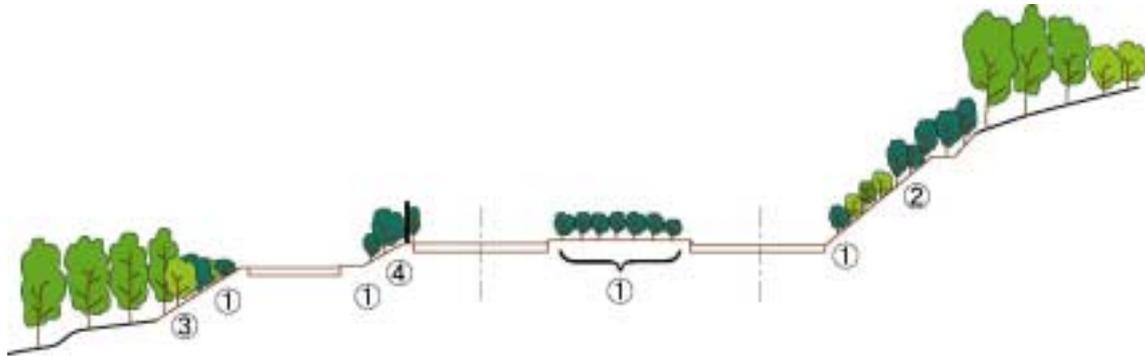


図2 遮蔽フードを設置し路面以外への光の広がりを抑制する保全対策

一般部



選定樹種（郷土種を中心に選定）	
①走行車線付近 ・耐煙性がある種 ・維持管理（剪定など）に耐える種	③盛土部 ・将来、広葉樹林を形成する種 ・小鳥類の生息基盤となりうる種
②切土のり面 ・耐乾性がある種 ・のり面の崩落を起こしにくい種	④遮光板または遮音壁付近 ・修景効果が高い種 ・遮蔽性が高い（常緑樹主体）種

I C 部

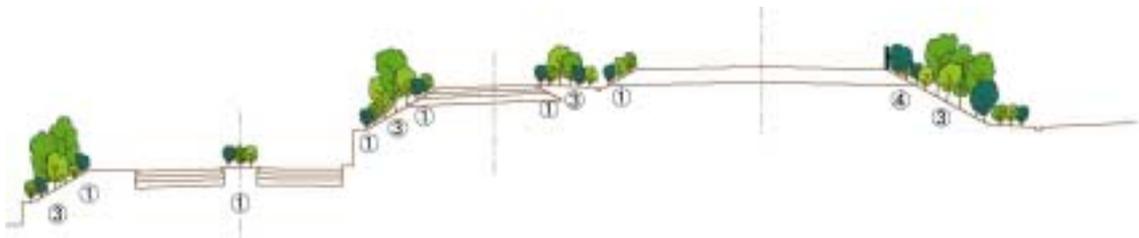


図3 法面等への郷土種を中心とした植栽による保全対策

(2) 工事中の保全対策

トンネル坑口部



プラント部

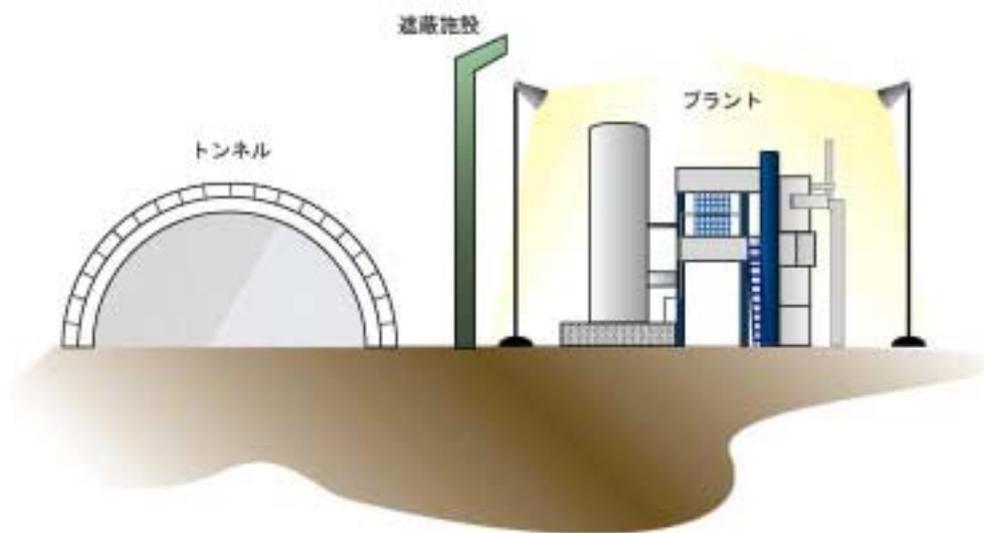


図4 トンネル坑口やプラント周囲には遮光板等を設置し、
光の漏れを抑制する保全対策



図5 工事には低騒音・低振動型の建設機械を使用し、
工事騒音・振動の低減を図る保全対策

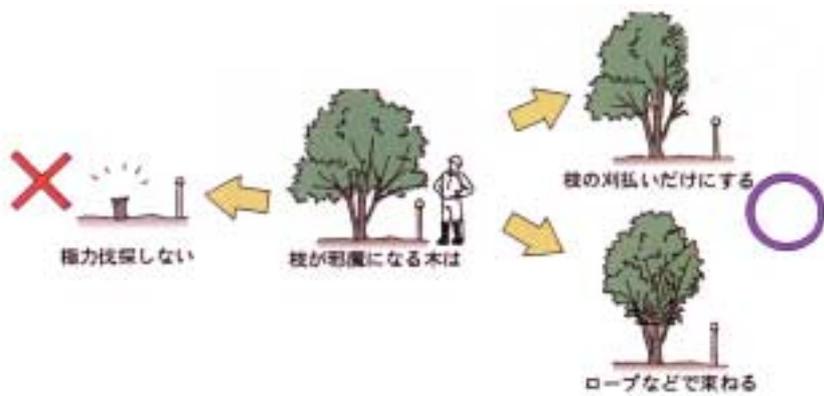


図6 樹木の伐採は必要最小限度にとどめ、急激な環境の
変化を避けることによる保全対策

オオタカ的生活サイクル

	求 愛 期	造 巢 期	抱 卵 期	巢 内 育 雛 期	巢 外 育 雛 期		非 繁 殖 期
--	-------------	-------------	-------------	-----------------------	-----------------------	--	------------------

敏感度

小 ← 中 ← 大 ← 極大 ← 大 ← 中 ← 小

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	---------	---------

← 特に配慮する期間 →

図7 オオタカ的生活サイクルに配慮した工事工程を計画
することによる保全対策（調査結果より生活サイクルを推定）